



つなぎっぱなし 充電機能搭載

充電忘れ

いざという時
使えない...

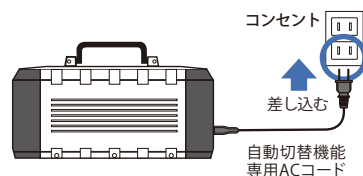
が無くなります!

つなぎっぱなし充電の流れ

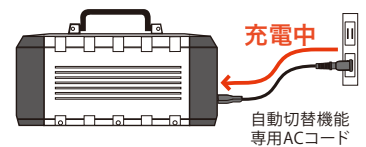
家庭用コンセントに自動切替機能専用ACコードをつなげっぱなしにしておくと、自動的に満充電→充電停止→充電開始(自然放電を感知後)を繰り返します。

それを年3~4回程度自動で繰り返すため、常に約90%の充電残量が保たれ、いざ使用する時になって、肝心の充電残量がない!という事は起こりません。

① 自動切替機能専用 ACコードをつなぐ



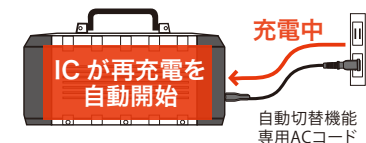
② 充電を開始



③ LB-400 内部の IC が満充電後を感知し充電を自動停止



④ 自然放電後、充電残量約 90%を目安に自動的に再充電を開始



充電方法の進化

貯めた電力を使ったら、再度充電する事が必要です。また、いつ起こるか分からない災害などに対応するため、常に満充電に近い状態に保ちたいものです。

しかし、従来型のポータブル蓄電池では充電が終わったら充電用アダプタを抜いて保管しなければならず、使用しなくても電池残量が減らないように3か月に1回程度の充電が不可欠となります。

うっかり充電を1年以上忘れてしまうと使用したい時に十分な電池容量が得られないばかりではなく、最悪の場合は2度と使用できなくなってしまう。

定期的な充電を忘れないように、仮に従来型のポータブル蓄電池を充電しっぱなしの状態に放置してしまうと内部の蓄電用電池が劣化し、寿命が極端に短くなってしまいます。

その点、LB-400等エナジープロシリーズのポータブル蓄電池は、つなぎっぱなし充電が可能なので、定期的に倉庫から取り出して充電しなければならないような面倒もなく、いつでも満充電に近い状態を維持しているので、いざという時でも安心です。

つなぎっ放し充電

常に壁のコンセントと蓄電池本体を繋げていただく事で、充電が完了したら自動的に充電をストップし、また自然放電が起こってしまっても、自動的に継ぎ足し充電が行われます。^{*1} 自然放電監視中は蓄電用電池に電力が触れる事がないので従来の蓄電池のように劣化が進行することはありません。

つまり、年に3回~4回程度、人の手で充電残量を確認し、減っていたら再度充電し、充電が終わったらアダプタを抜いて保管するといった手間が、内部の回路によって自動化されたもの、それが「つなぎっぱなし充電」機能です。なおかつ、いざという時に充電残量が無かったというような事が起こりえません。

常に満充電に近い充電残量であるからこそ、「備え」になるものとわたしたちは考えています。

^{*1} 自然放電時、概ね10%の蓄電量を失った際に自動充電が行われます。

販売代理店

株式会社 センチュリー 特販事業本部

〒110-0016 東京都台東区台東2-28-5

TEL:03-5818-7065 FAX:03-5818-3565

www.century.co.jp